

# 令和4年度 事業報告書

## 1 令和4年度事業概要

静岡市及び静岡県からの受託事業を確実に実施し、市が発注する保全業務に対する監理支援を行うとともに、樹木医との技術提携により松原保全に係る専門知識や実践的な技術習得に努め、各業務や調査、樹木診断の結果を検証した。

また、名勝100周年記念の企画展として、静岡市と共催の「クセのある生き物コレクション」と題した写真展を開催するとともに、マツ材線虫病の被害状況や羽衣の松周辺の老齢大木の樹勢状況を「技術情報」として発信するなど、来訪者や地元住民の三保松原への関心と保全意識の啓発に努めた。

さらに、九州大学とのリモート講義、県主催の森林・林業技術研究発表会における研究発表、地元で活動する団体との意見交換をとおして、三保松原における研究所の役割や保全活動を紹介した。

## 2 事業別実績

### (1) 受託事業 ～日常的・専門的な管理～

静岡市、静岡県から受託する松原保全事業を専門的な知識と技術を活かし総合的、一体的に実施した。

#### ① リスク軽減事業

##### ・ マツ材線虫病防除

伐倒駆除、薬剤散布及び予防剤樹幹注入の設計・監理を行うとともに、予防剤樹幹注入の施工業者に対し適切な施工方法を指導するため現地研修を実施した。

##### ・ 老齢大木の樹勢回復

技術提携した樹木医とともに、老齢大木の樹勢回復に係る土壌改良の施工後の状態を検証するため土壌改良モニタリング調査を実施した。

また、公益的機能モニタリング調査及び羽衣の松周辺の老齢大木の薬剤散布と踏圧対策ルート維持の設計・監理を行った。

- ・危険木対策

三保松原の健全な育成と景観維持のため、技術提携した樹木医とともに外観診断、簡易内部診断、詳細内部診断（音波・貫入）による樹木診断を実施した。

## ②松原再生事業

- ・景観改善

間伐試験箇所成長率を観測するため間伐モニタリングを実施した。

- ・森林管理

松原管理システムによるマツの個体管理をするため、今年度実施した伐倒駆除、予防剤樹幹注入、薬剤散布、樹木診断等のデータを更新した。また、三保松原の保全活動に参加するボランティアに対し、松葉除去や除草等の指導及び支援を行った。

- ・圃場管理

三保松原圃場の施設管理、母樹の状況調査、三保由来のマツの育苗に着手するとともに、三保松原圃場の管理及び育成マニュアルを作成した。

## ③三保モデル確立事業

- ・水平的連携モデル試行及び検証

講習会の実施や研究所の日々の活動、地域の松原保全活動を記録し、三保モデルについての考察及び課題、提案を行った。

- ・講習会の開催

地域住民やボランティア団体等に対し松原保全に関する講習会を実施した。

- ・学識経験者との連携

最新の知見を取り入れた保全対策を進めるため「三保松原におけるマツ材線虫病対策」をテーマに、外部の学識経験者と連携した現地検討会を開催した。

## (2) 公益事業 ～財団自主事業～

地域やボランティア団体等と連携し、水平的協働による保全活動を積極的に支援した。

### ①保全活動の支援

来訪者、保全団体、企業 CSR 活動など、松原保全に参加する各団体の意欲を高め、効果的な保全につながる活動を支援するとともに、「みほしるべ」から要望のあった保全活動に用いる資材等の支援を行った。

## (3) 研究開発事業 ～財団自主事業～

マツの保全や森林生態に精通した学識経験者や、県森林・林業研究センターなどの関係機関と連携し、組織の専門性、知見、技術力の向上を図るとともに協力体制を構築し調査研究を進めた。

### ①マツに関する調査研究

枯れマツ調査の結果、マツ材線虫病に感染した疑いのある枯れマツについて検体を採取し、県森林・林業研究センターにマツノザイセンチュウDNA検査を依頼して感染の有無を確認した。なお、今年度は検査に必要な機器を揃え、来年度以降は直営でDNA検査ができる体制を整えた。

### ②適切な松原管理手法の確立

AOI 機構及びふじのくに地球環境史ミュージアムの研究員を招き、県、市の職員を交え将来にわたり松原を適切に維持・管理していくための効率的かつ効果的な三保独自の管理手法について意見交換を行った。

### ③マツの圃場管理方法の調査研究

三保松原圃場において、三保由来のマツを安定的に供給できる環境を構築するため、県森林・林業研究センターによる播種、さし穂等の技術指導を受けるとともに、県外の圃場を視察しマツ苗の栽培や移植方法について実習した。

#### ④マツの生育に関する調査研究

三保独自の土壌改良方法の確立に向け、施用する素材や方法を研究するため、令和3年度に設けられた試験区において生育調査を実施した。

#### ⑤東海大学との共同研究

三保松原の保全及び再生に取り組む中で、マツ材線虫病防除におけるドローンを活用した薬剤散布の実証実験の成果をまとめ、大学と共有した。

### (4) 教育研修事業 ～経営方針（目的・目標）実現ための事業～

三保松原の持続的な保全や研究開発に必要な知識の習得、技術力の向上に取り組んだ。

#### ①松原管理のための教育研修

県主催の森林林業に係る講演会、日本海岸林学会主催のワークショップ及び現地検討会、樹木と緑化の総合技術講座及び実習などに参加し、適切な松原管理に必要な基礎知識と技術習得に努めた。

#### ②樹木診断機器の操作技術の向上

財団が所有する樹木診断機器の操作手順や診断技術の精度を高めるため、伐倒駆除する枯れマツを用いて実践的な練習を行い、「神の道」の樹木診断を実施した。

#### ③危険木の診断技術の確立

老齢大木等の倒伏リスクは、外観診断や樹幹内部診断による判断が求められるため、技術提携した樹木医とともに樹木診断を行い、適切な診断技術の向上に努めた。また、「三保まつしらべ」アプリの利用普及を図るため、ボランティア団体等への講習会にて紹介した。

### (5) 収益事業

静岡市及び静岡県からの受託事業や自主事業を積み重ねることで、組織としての実績と職員の専門的知識や技術力の向上に努め、安定した運

営基盤の構築に努めた。収益事業については方向性、可能性を検討していく。